

水稻の早晩性の標記について

農業試験場

水稻品種の早晩性は、一般に極早生、早生、中生、晩生、極晩生の5種類に分類されます。早晩性は品種固有の特性ですが、播種期や栽培地により変動します。一般に、収量は早生種よりも晩生種で多い傾向にあります。

新品種の農水省への品種登録出願の際の審査基準では、全国を寒地から暖地までの7地域に区分し、地域ごとに極早から極晩までの標準品種を定めています(表1)。この中では、地域により、同じ品種でも成熟期の早晩性の分類が異なります。例えば「コシヒカリ」は寒冷地中部(東北地方中南部)では「晩」に分類されますが、暖地(九州)では「かなり早」になります。なお、長野県は7区域に区分されたうちの温暖地東部に含まれます。

一方、各県が定めている奨励品種の特性表では、これと異なった標記となる場合があります(表2)。県により表現は異なりますが、長野県では「あきたこまち」は「早生」、「コシヒカリ」は「中生」となります。

新しく育成された品種については、その育成地における早晩性が示されます。このため、例えば温暖な地方で育成された新品種を寒冷な地方に導入した場合には、より晩生になり遅延型冷害に遭う可能性もあります。育成地における、既存品種の早晩性との関係を確認するなどの注意が必要です。



高温障害が少ない良質・多収・良食味水稻品種「風さやか」(中生晩)

表1 水稻審査基準 成熟期 (農水省(抜粋))

	極早	かなり早	早	やや早	中	やや晩	晩	かなり晩	極晩
寒地(北海道)									
寒冷地北部 (青森県)						あきたこまち			
寒冷地中部 (東北地方中南部)			あきたこまち		ひとめぼれ		コシヒカリ		
寒冷地南部 (北陸地域)		あきたこまち		ひとめぼれ	コシヒカリ				
温暖地東部 (関東、東山、東海)		あきたこまち	ひとめぼれ	コシヒカリ					
温暖地西部 (近畿、中国、四国)	あきたこまち	ひとめぼれ	コシヒカリ						
暖地(九州)		コシヒカリ							

表2 各県の奨励品種特性表における早晩性の標記

	岩手	秋田	茨城	長野	広島	高知	熊本
あきたこまち	中の早	早生晩	早生の早	早生	極早	早の中	—
ひとめぼれ	晩の中	中生晩	早生の晩	中生早	早	—	—
コシヒカリ	—	—	中生	中生	早	早の晩	極早

担当者

三木 一嘉

電話番号

026-246-9783